富田林市

資料2

3. 議事

(1)金剛地区再生指針推進の進捗について
（平成29年度）

1

金剛地区のニュータウン問題

富田林市

高度経済成長等に伴う、大都市圏への人口流入を受け入れるため、昭和40年代に旧日本住宅公団（現UR都市機構）が、土地区画整理事業により開発。

良好な住環境を備えたまちとして発展

開発後約半世紀が経過

いわゆる「ニュータウン問題」が顕在化

人口の減少	昭和50年代をピークに、約30%の減。 特に若者（団塊ジュニア世代）の減少が著しい。
少子高齢化	居住世代の偏りにより、周辺地区に比べ 少子高齢化が著しい。
施設の老朽化	まちびらきに合わせて整備されたインフラが 同時に老朽化。

※これらに起因するさまざまな問題も顕在化。

2

金剛地区再生指針（平成29年3月策定）

住民、地域団体、事業者等とともに議論を進め策定。

金剛地区にかかわる全ての人等が連携し、共に金剛地区の再生・活性化に取り組むために共有すべき方向性を示したビジョン

まちの将来の目標像

一人ひとりが煌（きらめ）き続けられるまち

誰もがいきいきと学び、遊び、働き、また地域活動等に取り組むなど、**一人ひとりが煌き、自らの夢や想いの実現に取り組む**ことができるまちを目指します。

閑静な趣（おもむき）を育み続けるまち

まち開きから約半世紀を経て成熟した**閑静な趣を引き継いで、まちへの愛着と誇りを育てるとともに、新しい風を受けて次世代に向けて魅力を育み続ける**まちを目指します。

将来像の実現に向けた4つの視点と取り組み項目

1　地域の連携による「サービス」と「支え合い」の展開

1－1　地域の連携で、暮らしの安心を支える
1－2　便利で魅力のある生活サービスを充実する
1－3　居場所」となる活動をつくる
1－4　多様な「交流」の仕掛けをつくる

2　多様な「住まい」の供給・流通の促進

2－1　改修や建て替え等に取り組む
2－2　空き家の流通促進等、住宅市場の活性化を支える

3　豊かで多機能な「空間・施設」の充実

3－1　空き店舗等を活用し、多機能が複合した生活サービス拠点づくりを目指す
3－2　生活サービス機能等の充実のため、空き家や空きスペースを有効活用する
3－3　“憩える”“楽しめる”“使いこなせる”広場や通りに再生する

4　まちを運営する「仕組み」の構築

4－1　住民等が主体となってまちを運営する「仕組み」をつくる
4－2　時代の変化にあわせてまちづくりのルールを考える

指針推進の組織体制等

富田林市

金剛地区再生指針推進協議会
- 地区住民
- 学識経験者
- 地域団体
- UR都市機構
- 関係事業者
- 行政（府・市）

指針の進捗管理・専門領域にかかる助言等を行う。

相談 ↔ アドバイス

金剛地区まちづくり会議
（H29.6に設立）
- 地区住民
- 地域団体
- 地区内の事業者
- その他

〔事務局（市）〕

↔ 町会(自治会)等

連携・協力

↔ 事業者・行政
- UR都市機構
- 南海電鉄
- 社福協議会
- 大阪府
- その他

メンバーが参加

○○○部会　○○○部会　○○○部会

新たな参加

住　民　等

アイデア実現のためのプロジェクトチームとして「部会」を設置

・地区の再生・活性化に向けて、先導的に実践する取り組みを「リーディングプロジェクト」として選定し、企画・運営。

・参加者が「アイデア」を出し合い、地区再生・活性化に資する取り組みを検討。
・関係主体が連携して取り組むとともに、行政も積極的に支援。

5

金剛地区まちづくり会議

富田林市

金剛地区まちづくり会議の全体会において、具体的取り組みのテーマを検討

第１回（6/11）　参加者全員が金剛地区への「思い」を発表。
第２回（6/24）　府大 小野先生による「増進型ワークショップ」実施。
第３回（7/9）　具体的なプロジェクト始動に向けて、テーマごとに分かれて「グループワーク」を実施。

部会による活動を展開

居場所づくり	イベント企画	防災活動	公園活用
だれもが集える居場所や活動づくり	イベント等を通じ地区を盛り上げる	地区内の防災意識の底上げを図る	公園の利活用促進の検討

各部会の取り組みを共有し、新たな展開を検討

更に活動の活発化を目指す

第４回（9/30）　各部会での検討・活動内容等を、まちづくり会議で共有。
第５回（12/17）　各部会での取り組みを総括するとともに、会議メンバー以外の参加者とも連携し、今後の展開を検討。
第６回（３/１７）　一年間の活動のふりかえりと今後の活動、また「まちづくり会議」の運営について検討。

6

金剛地区再生指針推進の進捗について（H29年度）

富田林市

1　地域の連携による「サービス」と「支え合い」の展開

福祉委員会によるサロン開催　小学校区ごとに開催

→小学校の多目的室等を利用し、地域の集える場としてサロンを開催。
→歌声喫茶や季節のイベントなどを実施している。

寺池台三丁目自主防災会が発足

→住民有志が自治会と連携し、地区で6つ目となる自主防災組織が発足。（17団体中）

つながりカフェの開催　主催：金剛地区まちづくり会議、金剛地域つながり応援実行委員会

→地区内のUR集会所にて、住民のつながりを広げようと企画した集いのカフェ。見守りに関する講話、歌声喫茶、カフェタイムなどを実施。
→H29/10/13に開催。当日参加者は41名。（その他スタッフ約30名）

市の施策

地域防災訓練実施への支援
→ H29/11/12　伏山台小学校区 152人参加
→ H29/11/25　寺池台小学校区 132人参加

防犯カメラ設置補助金事業
→金剛地区では1団体（4基）の設置を補助

街路灯のLED化
→金剛地区では240灯をLED化

7

金剛地区再生指針推進の進捗について（H29年度）

富田林市

2　多様な「住まい」の供給・流通の促進

医療福祉拠点化の推進や魅力的な住宅の供給　UR都市機構による取り組み

→「健康寿命サポート住宅」の供給。
→若者層向け企画住宅「MUJI×UR」の供給。

若年世代等、多様な人々への移住施策の実施　UR都市機構による取り組み

→若年層の入居促進策として「U35割」や「近居割」などを実施。

金剛第三住宅を見つめる会の活動

→住民有志によるUR分譲住宅の建て替え事業も含めた検討を進めている。
（ニュータウン再生のハード整備に関する先導的な取り組みと成り得る。）

市の施策

近居同居促進給付金の給付
→金剛地区では近居10件、同居0件

耐震診断・改修補助金の交付
→金剛地区では診断2件、改修1件

空き家セミナー（H28）や空き家の実態調査を実施
→金剛地区（4小学校区）では、空き家と思われる建物が165戸

8

金剛地区再生指針推進の進捗について（H29年度）

富田林市

3　豊かで多機能な「空間・施設」の充実

軽トラマルシェの試験開催　主催：金剛地区まちづくり会議

開催場所：金剛銀座商店街（30/2/24）、高辺台2号公園（30/3/4）
→「富田林市の農業を創造する会」等と連携し、野菜等の販売を実施。
→H29年度は試験開催として、2回開催。
→H30年度以降は毎月第4土曜日の定期開催へ。

寺池公園フィールドワークの開催

→金剛地区まちづくり会議（公園活用部会）により、公園の利活用促進に向けて実施。
→H29年度に2回の部会を経て、H29/10/28に開催。参加者13名。

金剛バル★WinterLand の開催　主催：金剛にぎわい創出実行委員会

→H29.11.26に開催。来場者約3000人。金剛中央公園で開催。
→金剛のにぎわい創出とふるさと意識熟成を図るイベント。

市の施策

フィールドワークでの意見も参考にして

- 寺池公園にて一部の樹木を剪定
- 金剛駅～金剛ショッピングモールで金剛きらめきイルミネーションを実施　H29/11/26～H30/1/21
- 公園愛護会への報償金支給、掃除用具の支給　→金剛地区では10団体

金剛地区再生指針推進の進捗について（H29年度）

富田林市

4　まちを運営する「仕組み」の構築

金剛地区まちづくり会議の設立（H29.6）

→本会議、部会においてプロジェクトの企画・運営を行う。
※居場所づくり、イベント企画、公園活用、防災活動など

金剛地区の情報発信に取り組む

→金剛地区まちづくり会議による、ひろとんへの参加、ニュースレターの発行（2回）、Facebookの開設など。

市の施策

金剛地区内の
・施設や公園の情報
・居場所の情報
・活動団体の情報　など

- 金剛地区の情報データベースを整理し、市ウェブサイトで発信
  →ページへの訪問者数70人、ビュー数138人
  →問い合わせ3件　（H30/4/1～8/31）
- 金剛地区まちづくりシンポジウムを開催
  →H30/3/4、金剛公民館で開催、参加者約90名